

平成20年度地域CT賞

1) 題目：「化学工学北海道懇話会・講演会」（北海道支部）

本講演会は、北海道の化学工学界の異業種交流の場を構築する目的で、北海道大学工学部の故久郷昌夫教授（当時）の提唱によって「北海道化学装置懇談会」として昭和37年にスタートして以来46年に亘って、北海道の化学工学分野に於ける基盤技術の確立と地場産業の発展に務めてきました。

この講演会は、会が発足した翌年昭和38年2月に第1回が開催されて以来年3回ずつ、北海道内の会員企業が持ち回りで「見学会・講演会」を開催し、文字通り異業種交流の場として北海道における「化学工学」の普及、発展に尽力してきました。

昭和62年、会の提唱者久郷昌夫先生の北海道大学退官を期に、会の名称を現在の「化学工学北海道懇話会」と改め、第73回講演会からは、「化学工学北海道懇話会・講演会」として、北海道の化学工学界を代表する行事として続けられました。また、平成11年4月、化学工学会の北海道地区組織がそれまで所属しておりました関東支部から「化学工学会北海道地区連合会」を経て「化学工学会北海道支部」として独立しました。その後は支部と化学工学北海道懇話会の共同主催行事として、「技術懇談会」、「講演・見学会」、「アカシアセミナー」と会の名称を定め、個々の会の性格を明確にしながらも、「化学工学北海道懇話会・講演会」として、より洗練された形で北海道の化学工学分野での産学官連携の推進に尽力してきてきました。

45年の間に、化学工学北海道懇話会が「講演会」を開催し続けることによって、北海道の化学工学界の発展と地場産業の活性化、ひいては北海道民生活の向上に果たしてきた役割は計り知れないものであり、地域CT賞にふさわしいものであると認められました。

2) 題目：「最近の化学工学講習会」（関東支部）

本講習会は1948年に化学工学会（当時化学機械協会）の事業としてスタートしました。その後1955年の関東支部発足とともに支部事業として引き継がれ、平成20年度の第59回まで60年という長期間にわたって継続開催されています。同講習会は直近の数年の間に大きく発展した化学工学の各分野の成果や考え方を集成して解説し、会員である技術者、研究者に最新の情報を提供するとともに次の数年間への問題提起を行うことを目的としています。また、単に講習を行うだけでなく、講習内容をまとめた形で会員に共有してもらうために産、学、官から選ばれた各分野の第一人者である講師が執筆したテキストを出版してきました。この出版物「最近の化学工学」シリーズは研究、開発において、あるいは事業現場において活用されているとのことです。

開始当初は一つのテーマを取り上げるのではなく、1日3件、4日間にわたって、各分野の最新的话题を講義する形式で実施、最初のテキストは1949年に「化学工学講義」のタイトルで出版されています。1973年の第26回より、テーマを一つに絞り、2日間にわたって10件前後の講義を行う現在と同じ形式となりました。従来の単位操作中心の内容から近年はその間に化学工学の新機軸となりうるテーマがバランスよくはさまれています。また、従来からあり、将来にわたっても化学産業で必要とされる基幹的な分野については10年あるいは15年おきにテーマとして取り上げ、その間の進展についての情報を提供できるよう長期的展望に立って企画されています。2006年度からは化学工学会内の部会あるいは部会内の分科会に協力を依頼し、各部会関連分野の講習会を順次開催する方針で運営されています。

60年におよぶ長い期間、時宜に適した化学工学分野の技術、研究の最先端情報を提供し続けてきたことの価値は極めて高く、地域CT賞にふさわしいものであると認められました。

3) 題目：「日韓学生シンポジウム」 (九州支部)

本会議は、日韓両国で開催している化学工学に関する国際シンポジウムでは、大規模な学生による国際会議であります。1988年より毎年、日本側九州地区と韓国側大田・忠南地区において交互に開催しており、今年で22年目を迎えます。この国際会議を開催するきっかけとなったのは25年前にさかのぼり、現福岡大学諸岡成治教授が、九州大学の助教授として在職中に、韓国科学技術院（KAIST）の Sung Done KIM 教授が研究室を訪問され、両者の間で学生を中心とした研究室交流を構想されたことに始まります。1986年には諸岡教授は3名の学生を連れて、当時はソウルにあった KAIST の KIM 先生の研究室を訪問し、両国の学生が英語による研究発表を行っていました。学生にこのような機会を与えることは、教育研究面だけでなく日韓両国の学生が交流することで相互理解が深まるという点で重要であるという認識を強くもたれ、発足したばかりの化学工学会九州支部の行事として国際会議とすることの協力を支部の各教員に呼びかけ、1988年に第1回の学生シンポジウムが九州大学で開催されるに至りました。

本会議は九州地区が韓国と距離的に近いという利点を活かした企画であり、はじめは九州地区の学生の参加に限られていましたが、学生への教育効果が大きいことが広く知れわたり、現在では九州地区以外の参加者が増え、昨年、佐賀大学で開催された第21回大会では全参加学生の20%を九州地区以外の学生が占めるに至りました。加えて海外からの参加国として新たに台湾およびタイからの学生の参加があり、国際化が一層進んでいます。全参加者数は最近開かれた大会では300名を越える規模の大会となっています。

以上のように、日韓学生シンポジウムは、アジアに最も近い支部としての長所を活かした世界にも例のない大規模の学生シンポジウムであり、これを支部行事として20年間継続したことによって、九州支部の化学工学教育に大きく貢献しており、地域CT賞にふさわしいものであると認められました。